

門 連 結 成 三 十 周 年

意義ある年をむかえるに当て

日蓮聖人門下連合会常任理事
大橋邦正



昭和34年8月19日・立正安國論敵七百年記念大会

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)751-7181

平成元年 6月13日
第7号

本会が昭和三十五年二月に発足してから明平成二年には満三十周年の記念佳辰をむかえる。一口に三十年というが、長い宗門史を経た上で実現した連合組織であり、三十年という区切りはズシンと重たいものを感じる。三十年をふりかえるとともに、その間の動静を知り、明年の満三十周年記念大会に向け、ムードの盛り上がりを見守りたい。

日蓮聖人門下連合会は、明平成二年度に結成三十周年をむかえる。願わば本会は去る昭和三十四年、あとも日蓮聖人第一国諫たる立正安國論上書より七百年という、聖祖ご門下にとつて意義まことに重要な節目に遭遇し、この年こそ、立正安國の大義を宣揚する好機と、ご門下共同して記念の大会を催すべく、国柱会田中香浦会長の提案により、期せずしてご門下十一教団結束のもと同年八月十九日(旧暦七月十六日)、東京神田の共立講堂において、「立正安國論敵七〇〇年記念中央大会」が盛儀をもって開催され、聖祖立正安國のご精神をひろく世に示しご報恩の万に一に擬し奉った。

祖廟中心のもとに奉告式

その頃の門連の中心議題は、新しい世界状況に対処して日蓮聖人の真の教を流布してゆくためには、まず門下各派が結束して広宣力を示すことが大事であり、その実践の第一は、「異体同心なれば万事を成す」の聖訓を、全門下の第一義と銘肝し、共通の聖的たる祖廟に各派結合して帰一するということであった。

破邪顕正の大講演会

門連の結束は結成以来年ごとに成長し、連合体として広宣流布の聖業を具体的に表明する、日蓮聖人門下連合大講演会を組織以来初の試みとして昭和四十一年五月二十一日、東京日比谷公会堂において開催した。

全日仏の軽率な刊行を誠む

あたかもこの頃、全日本仏教協会が「創価学会の批判的解明」なる書を刊行した。本書は猖獗をきわめる創価学会を批判するものであるが、内容において学会批判のみにとどまらず、日蓮聖人に対する誹謗的表現があるのみならず、歴史的事実および教義上の誤り等許しがたき記述あるを重視し、門連はこれに対する対策協議をかね、とくに常任理事の国柱会田中香浦師、日蓮宗茂田井教亨師さらに在京常任理事の諸師が専門委員となつて、これの徹底解明にあたられた。門連としては、門下統一見解を草し全日仏当局に厳重抗議を申し入れ、該書の廃刊と陳謝を要求した。全仏当局は翌三十九年二月二十五日、日蓮聖人門下連合会に対し

從地涌出

いまお隣の国中国では、民主化と平等へ目覚めた、純な学生と一般市民の改革運動で、大きく揺れ動いている。5月21日付の日経では「老害・批判高まる」という小見出しで、「中国の指導者では、つきりした哲学のある人は少ない。古い先づは適わない。」という中国・清華大学学生の声を載せていた。●老害とはなかなかに厳しい批判である。これから社会は、特に日本は高齢化社会に向かうとしていられる。しかしこの長寿ということが確かにいろいろな分野で問題を生んでいることも事実だろう。様々な組織の世代交替の面でも、特に多く聞くようだ。発展している組織と低迷している組織、この差はどこにあるか。ここで論ずるまでもない。●ところで門連各派内ではどうであろうか。●妙法題目の総弘通・世界に向けての一大施策はなされているだろうか。来るべき21世紀という未知の社会に向けての対応を、次代を担う若手を育てて、真剣に改良実践に取り組んでいるだろうか。そこには旧態依然とした「壁」が立ちはだかっているのだろうか。老驥千里を思うとは言っても、駿馬も老いては駄馬に劣るといふ面もあるわけで、長年積み重ねて来られた徳や功績が、執着という醜さの為に、最後で総てを否定されてしまうことのないよう念じたい。●こんな内側の小さな問題や隣の国の問題にうつろを抜かしているのではなく、生命倫理の問題・環境汚染の問題・四簡格言批判などの宗義問題等々、門下弟子檀那一統が立ち向かわなくてはならない「外側からの問題」は山積みして迫っている事実を目を向けなければならぬ。そして、この点こそが経験深い老聖方が、責任もって解答し、指標を示すべき役どころであると思う。「万事を聞いて謗法を責むべし」「身をば死すとも法をば弘めよ」と仰せの御妙判を身にしみて考えなければならぬ。(F記)

シリーズ門下御本山巡り 6



大本山妙蓮寺

京都市上京区寺ノ内通大宮東入 〒602 tel.075-451-3527

大本山妙蓮寺(本門法華宗)

後醍醐天皇の勅許、本門八品正意の根拠地

大本山妙蓮寺は、宗祖日蓮大聖人より帝都弘通宗義天奏の遺命を受けた日像聖人によって、永仁二年に創建された。日像聖人が遺命を果たすため鎌倉より京都へ上られた時、五条西洞院の柳酒屋は深く聖人に帰依し、未亡人は邸内に一字を建立して聖人を請し、卯木山妙法蓮寺と称した。これが妙蓮寺の縁起である。(柳の字を二つに分けて卯木山という)しかし、他宗の僧侶から邪見の人と謗られ、悪口怨嫉数知れず、無智の俗衆は説外道論議と謗って杖木瓦石を加え、弘通を障碍し、ついには精舎を破却した。帝都追放も度度に及び、妙法蓮華寺は廃寺の運命をたどる。その後、赦免掃洛の勅許を得た聖人は、ついに後醍醐天皇より一宗弘通の公許を得ることができ、ここに勅願寺妙蓮寺が建立された。その後、応永年間に本迹勝劣、本迹一致の論争が起こり、その論争を契機に妙蓮寺を離れた日存・日道・日隆・日慶聖人らによって、柳屋の地に本門八品門流として再興された。

教学は、日隆の本門八品正意をとり、一宗としての独立を宣言した。寺域を堀川四条に移し、皇室ならぬ。天文五年には、日蓮法華宗の隆昌を妬む比叡山天台宗を筆頭に諸宗の僧俗十万人によって襲撃され、妙蓮寺も二万人をもって防戦したが、京都市中に入った日蓮門下二十一本山は、ことごとく灰燼に帰し、堺に立ち退いた。天文十一年、大宮西北小路に復興され、天正十五年には、豊臣秀吉の聚楽第造営に際して現在地(堀川寺之内西入)に移転した。当時は、一平方キロの境内に塔頭二十七ヶ院を有する大寺院であったが、天明八年の大火によって、そのほとんどが焼失し、わずかに宝蔵、鐘楼を残すのみとなった。寛政元年より漸次復興して、現在に至り、塔頭八ヶ院を有す。

宝蔵が焼失よりまぬがれたこともあって、宗祖以来の御真筆御本尊や日像菩薩祈雨の御本尊、伏見天皇御宸翰、本阿弥光悦写筆の立正安国論など多数の宝物、重文を有する。なかでも、桃山時代の障壁画は、長谷川等伯とその一門の手により画かれたもので、注目に値する。また、伏見城より移したとされる玄牝石(臥牛石)を中心とした十六羅漢の石庭は、桂離宮を造庭した玉淵坊日首の作として、有名である。今年も京都市主催の『京の冬の旅』雅コースに選出され(三回目)、多くの観光客でにぎわった。会期中におとずれた外国人の中には、臥牛石を見て、スペースシャトルの様であると感想を述べた人もおり、もの見方、感じ方の底にある文化の違いを感ぜずにはおれなかった。妙蓮寺は、椿「妙蓮寺」という品種の名家でもあり、海北友松の画と徳川家康の賛が残っている。この賛の原文は、室町時代の有名な連歌師である自然斎宗祇のものとも伝えられる。いずれにせよ、今から四、五百年以前より存在することは確かである。原木は、昭和になって焼失したとあり、現在の椿は二世である。方丈中庭の椿が最も妙蓮寺椿の特徴である梅芯の形をしており、十一月の終から三月末まで咲き続ける。普段は、拝観を謝絶しているので、葉書などであらかじめ申し込んでおかれると拝観することができる。

本坊(方丈)は、参籠が可能で、年間を通じて外国人に人気があり、妙蓮寺に泊まること英語話の実践ができることとあって、わざわざ泊まりに来る常連の日本人もいる。宿泊できる部屋は、十六羅漢石庭に面した部屋や、昭和の襖絵(幸野豊一作)をめぐらした部屋で、いずれも部屋というよりは、表書院、奥書院の一部で、二十四畳に床の間、縁側つきという大広間にたった一人の宿泊客といったぐあいである。これも、寺の法要儀式の日程の都合もあり、予約が必要である。本山行事は、春秋彼岸会、盆といふ通仏教行事の他、主なものは、春季大法要(本末歴代年忌法要・檀信徒志霊法要、宗祖御会式、開山日像菩薩御会式などである。八品重視の今日的意味 本宗の宗名は、妙蓮寺が再興された当時の教学者である日隆聖人の教

義に依り、日隆聖人門下が用いられていた「本門法華宗」を公称している。本門は、本迹勝劣の義より、本門をとり、八品は、法華経涌出品十五より囑累品(二十一)までの八品をとる。八品をとるといっても、他品を讀まないわけではなく、教学上、この八品を重視するのである。本宗の教義は日隆聖人より始まったという立場をとる人もあるが、むしろ、宗祖・日朗・日像・大覚・朗源・日齊と受け継がれた法灯の真実義が日隆のいう八品正意であるとの立場に立つものである。つまりは日蓮大聖人のみ教えを高揚解説したのが日隆聖人の教学であるという立場である。この辺のことは、各宗門宗派によって、それぞれの立場があることでもあり、共に同門として連合連帯してゆくことが宗祖の願いでもあるから、謙虚に研鑽をかさねなければならぬ問題である。我が一方だけが正しいと主張しあっている間は、お互いを理解しあうのは難しいであろう。

妙蓮寺は、平成三年には、日像菩薩六百五十年御遠忌を迎えたその三年後には、妙蓮寺開創七百年を迎えようとしている。妙蓮寺と同様に日像菩薩を開基・開山と仰ぐ京都の本山、寺院は多数あり、報恩のまことを捧げる機会が多いのであるが、京都以外の日蓮門下寺院や檀信徒が、日像菩薩のことをほとんど知らないという現状は悲しむべきことである。日像菩薩と直接かかわりのない門流にあっても、日像菩薩が一宗弘通の公許を得られた恩恵に浴していない門流はない。また関西以西の法華弘通は、日像菩薩を中心とし、弟子の大覚大僧正の祈雨祈禱によって、日蓮・日朗・日像に大菩薩号、菩薩号を賜ったのである。このように日像という人は、日蓮門下において、重要な役割をはたされた人で、門下をあげて、報恩のまことを捧げていただきたいと切に願ひ奉るしだいである。最後に日蓮聖人門下連合会の益々の御発展と和合を祈ります。

立正安国論【重文】本阿弥光悦写筆

21世紀へ 豊かさを深める とうきゅうグループ 東急観光は、皆さまの身近な旅のコンサルタント。 豊富な感動のステージへ 東急観光 本社/東京都渋谷区渋谷1-16-14 〒150 phone.03-407-4044

門連時報

法華経寺聖教殿修復なる

中山法華経寺聖教殿は大正十五年十一月起工され、昭和五年六月に完成をみた。伊東忠太博士設計・内田祥三博士の構造設計により、建築委員長・山田三良博士、工事請負人・清水釘吉氏によるものであった。ちなみにその工費は貳拾余万円であったという。昭和三十四年六月、三十五年四月にかけて工費貳百餘万円により外部修理工事が行われた。昭和六十二年九月、長瀬日蓮貫首入山されるや聖教殿の漏水等につき抜本的な改修を発願、重要文化財祖師堂の改修工事と共に調査開始、六十二年六月、聖教護持財団理事会を開催して改修に関する大綱を決定した。工事を担当した清水建設は六十二年八月工事開始、主な改修は第一扉、第二扉の補修塗装工事、屋根撤去し、特注品25ミリメートル角厚さ6.4ミリメートルの特注品を使用した。又外壁石目地補修については劣化した目地モルタルを撤去し、漏水部に樹脂を注入して防水処理を施し、新規の目地モルタルを詰めた。総費用三千三百万円。施行期間中御聖教は全て国立民俗博物館に御移して格様に万全を期した。二月二十八日、御聖教奉遷、御聖教殿修復完成奉告式が挙行され、長瀬日蓮貫首導師の法味言上、宗務院、聖教護持財団、地元宗会議員、所長等が参列した。



修復なった聖教殿

祖廟輪番給仕奉行さる

国柱会により四月二十九日・三十日の二日間

国柱会主催による祖廟輪番給仕は去る平成元年四月二十九・三十の両日、身延山の祖廟前にて厳肅に奉行奉仕された。本給仕は、日蓮聖人門下連合会の規約にうたわれている「祖廟中心」の精神を体現して、その充実を目指し、毎年行われている恒例の行事である。今年も、第五十九回国柱会身延登詣団に引き続いて行われた。四月二十九日午後十二時、林蔵坊に集合した奉仕団は、まず田中香浦団長名代が身延山久遠寺当局に赴き、当局から「輪番旗」を受け、早速常勤給仕を開始した。この常勤給仕は二人制と三人制によって行われ、それぞれ一座三十分で交替、翌三十日の午後三時にいたるまで、昼夜不断の唱題給仕を奉行するもの。今回参加の奉仕員は団長以下総勢四十六名に上り、老若男女とりまぜた参加があったが、全員厳格に定められた輪番行規にもとづき、整然とした給仕がつけられた。ちなみに、祖廟輪番は日蓮聖人門下連合会の要請を受け、身延山当局が、門下全てに解放されて実現したもの、また奉仕の行規については各派教団独自の行規を認め、各派自主的に常勤できるようになっている。今回行われた国柱会による輪番行規を参考までに記しておく、(一)着座、(二)三礼、(三)献香、(四)唱題、(五)鈴法、(六)交替、(七)式監の各項にわたり細部にわたる規則が定められ、至心合掌の精神でそれらの規則の根底が貫かれている。服装についても厳肅なすがたを現出させるため、規定されている。輪番中の宿舎林蔵坊での起居生活態度は、まず相互に合掌の礼を正しく行うことが要求され、食事はすべて修行食、時間の厳守や居室内の整理整頓などの留意事項が示され、奉仕期間中の外出は禁止され、まさしく心・身ともに、大聖人いますがこ

とくに給仕申し上げる姿勢が徹底された。尚、国柱会より日蓮聖人門下連合会事務局宛に以下の報告文が提出された。合掌 青葉の候、益々御精進にて為法御精進の御事大慶に存じます。陳者 このたび日蓮聖人門下連合会を代表して国柱会が奉行した第二十五回の祖廟輪番給仕は佛祖の御加被のもと、団長田中国柱会会長以下四十六名を以て四月二十九・三十日の二日間にわたり、清浄の靈気みつる大祖廟まじかに昼夜不断の唱題給仕を奉行し、無限の法悦と感激をもって諸縁吉祥裡に成満いたしました。その節は、格別の御高配をたまわりましたこと、衷心より感謝申し上げます。ここに今回の身延祖廟輪番給仕の円了をご報告いたします。なお御参考までに別紙参加者名簿および輪番給仕要項を同封いたします。平成元年五月四日 国柱会本部 日蓮聖人門下連合会事務局御中 追伸 明年の第二十六回は、期日が決定次第お知らせいたします。

紙の紹介 日蓮本宗 布教誌「要法」



●宗教団体の機関誌・紙はその姿勢に外向けと内向けの二大別があるようだ。対外面に力を注ぐと対内面がおろそかになり、逆に対内面を重視すると対外的なテーマが見失われがちになる。●しかし本来はこの両面がバランスよく編集されていけば問題はないのであろう。●編集内容については、掲載記事自体の問題もあるが、文意を読者に確実に伝えること、読者にあきさせないで読んでもらうことが

必要だと思われる。そのためには、読者にとり、最大必要な情報を掲載することが何よりだ。●教団機関誌・紙をそのように考えてゆくと、その理想的な相は教団の教義や組織論や行動論が理解しやすく、かつ時宜を得て教団内に徹底させることが、ただちに外に向けての宣伝の材料に役立つ、ということだ。●今回紹介する日蓮本宗の機関誌である「要法」はその点、同宗の組織に属するメンバーにとって、貴重な情報源である。しかも全宗的な動きが要領よくまとめら

れ、こまめな細かい記事は、編集者の心配りがよく伝わってくる。●同誌は、年二回の発行(必要に応じて増刊されることもある)で、七〇〇部発行されている。毎号28頁建て、一頁には貫首宛下の巻頭文が掲載され、報道については「信行正軌・御妙判解説」と題した教学解説欄、「梨一葉」欄は宗義に関するテーマをエッセイ風に担当教師が信解を述べ、「東西南北」欄に全国各教区の動静を、また「本山往来」欄には、各自の本山における動きが細かく報道され、まことに要領よくまとめられている。●同宗では、昭和六十年として本堂および開山堂屋根全面修復を手がけているが、本堂のそれは完了し、開山堂にとりくんでいる。工事関連の写真入報道など興味深い。(編)

新しいタイプの日めくり 好評発売中

額装 ところの散歩 シリーズ

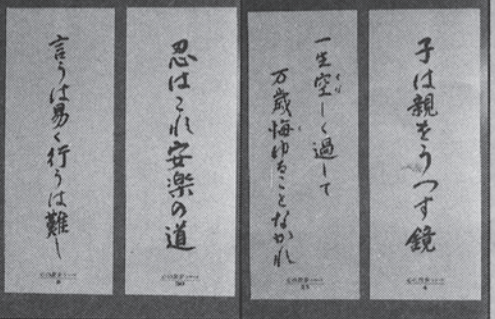
ところの琴線にふれる31の言葉

*御寺院様の引出物にどうぞ

特徴

- 豪華な額装仕立てに31の身近な教え
●上の切窓にはご自分の好きな写真・絵・カレンダーを
●どんな場所にも調和するシンプルなデザイン
●おしゃれな贈り物として最適
●価格は1200円と手頃(送料実費)

千里の道も一歩から/ありがたいと思う心に明日がある/古きをたずねて新しきを知る/子は親をうつす鏡/ゆっくり急げ/和を以て貴しと為す/言うは易く行は難し/親しき中に礼儀あり/身の財より心の財/実るほど頭の下がる稲穂かな/楽は苦の種/苦は楽の種/案ずるより生むが易し/良薬は口に苦し/わざわいは口より出でて身をよぶ/福を転じて福となす/あはれは成る/人間は努めている間は迷うもの.....その他全31句



多多数割引有り

お申込・注文は 日蓮宗新聞社

〒146 東京都大田区池上3-16-9 電話 03 (755) 5271

各派・教団 短信



本門法華宗

一月二十七日、教学講習会開催、於大本山妙蓮寺。青年僧を対象として「教学の学び方」と題して立正大学北川前教授の講演。

三月六日、宗務院(大本山妙蓮寺)に於て宗会を開催。大本山妙蓮寺開基日像菩薩六五〇遠忌並びに大本山妙蓮寺開創七〇〇年奉行に向けて本格的に始動した。奉行委員会規程、奉行特別会計予算、吉村信尚宗務総長を委員長とした奉行委員会委員の選定等を可決し、この事業に伴う平成元年度本門法華宗予算、学院予算本予算を承認可決した。

三月二十九日、教学講習会開催、於大本山妙蓮寺。佐野管長、中村貫首、持地閑士等の講義が四〇数名の講習生参加のもと行われた。(斎藤秀慈)

京都門連

本会が独自に発行している「京都門連通信」第五号が出来上り、関係先に配布された。今号では昭和63年度1カ年に於けるこの一年の歩みや(本山紹介)「門連ニュース」などの記事が掲載され、一面には沖日京人会長の挨拶、前理事長上田浩岳師のお礼の言葉も掲載されている。

法華宗本門流

去る2月25日、京都市大本山本能寺では、第百二十六世の法燈継承の晋山式が盛大に奉修された。新貫首和田日攝現下は、松平金岳公子の名刺・高松市本覚寺の住職で、宗門にあつては四国教区宗務所長・宗会議員等を歴任され、また華道一流流家元でもあられ、行学二道兼備

日蓮宗

昭和天皇崩御に依り、岩間日勇管長現下は奉悼の意を表され、日蓮宗教院は全国の寺院教会結社へ奉悼会の厳修を告示した。2月17日身延山久遠寺に於て管長現下大導師のもと「宗門奉悼会」を度修した。

3月7日、10日、第62定期宗会開催。於宗務院。お題目総弘通運動推進本部設置案、並びに、平成元年度予算案(13億4642万円)が可決決定をみた。

4月1日付立正大学仏教学部長に三友健容教授が就任した。4月11日、日蓮宗総合財団「日蓮宗布教助成会」はホテルパシフィックに於て第6回総合財団賞授賞式を行った。今回の授賞者は布教伝道部門・小川原潮栄師(新潟県三条実盛寺住職)と、海外布教部門・アジア仏教親交会会長藤井教雄師で塩田理事より賞状、盾、副賞が手渡された。3月末日任期満了に依り、4月1日付勸学院人事が一新された。勸学院宮崎英修、長谷川正徳、浅井円道、渡辺宝陽、石川泰道、上田本昌、中野文海、講学職勝呂信静、中尾堯文、小松邦彰、冠賢一、伊藤瑞教、市川智康、今成元昭、植田親泰、沼義昭、横山邦雄の各師。尚勸学職の互選に依り勸学院院長に宮崎英修師が選出された。

立正大学日蓮教学研究所(所長浅井円道師)ではこのほど「昭和定本日蓮聖人遺文四巻」の増補改定版を完成した。この増補改定版は昭和43年に同遺文増補版発行以来、日蓮宗宗宝審議会、立正安国会、日蓮教学

国柱会

昭和天皇の崩御にあい奉り、国柱会本部では七日間喪に服し連日奉修法要を厳修。以後七日ごとの御忌日法要を厳修。2月12日には全国から代表が参列して奉弔大法要を厳修し奉弔聖餐会がおこなわれた。2月24日、桜田門附近に集結し御霊柩を奉送。3月5日、武蔵野御陵を参拝した。なお、報恩行として「昭和天皇の御製」を刊行し普及運動を展開することになった。

2月11日、12日、国柱会本部で全国局長会議が開会され支局の活性化について等協議された。3月17日、神田学士会館で、「真世界」六〇〇号記念の集いが開催された。(秋場善弥)

顕本法華宗

去る3月6、7、8、の3日間第43定期宗会が総本山妙満寺に於て開催され、前年度事業、決算等の承認に合せて、平成元年度事業計画、予算案等が承認可決された。殊に、前年昭和63年7月に開堂されたブラジル顕本寺の動向が報告され、今後の布教並びに運営上、一層の強化補助をかかえて行く方針が決議された。合せて顕本寺支援基金を勸募し、将来的に現地より後継者を日本に招き養成する必要も有り、顕本寺の拡充発展の爲の裏付けとしていくことが確認された。

日蓮本宗

昭和63年8月末日をもって本堂屋根修復工事を終えた本山要法寺は、引き続き同年9月3日に起工式を奉修して「開山堂」屋根修復に着工。本年9月末の完工を目指して着々と工事が進んでいる。来る10月13日に「両堂屋根修復完工式」を行う。同本山では両堂屋根修復の成満を

記念して「本山常備法衣」を調製する。これは、門末全教師統一の法衣五条袈裟(いづれも本麻製)を調製して本山に常備し、御会式を始めとする本山法要に着用するもの。本人が遷化したときは、これを「臨終衣」として下附する。同本山では、5月8日に御開山日尊上人第六四五年の「御開山法要」を厳修。併せて第十九祖日成上人第三十五遠忌と第四十八祖日誦上人第二十三回忌を奉修した。同日午前には、全門末檀信徒で組織している「要法護持会」の第19回全国分会長会議を開催した。(柳正義真)

法華宗真門流

昭和63年4月、総本山本隆寺開創500年慶讃大法要に、仏縁深い後柏原天皇・明正天皇・明治天皇、三天皇の追福法要奉修の節、崩御された昭和天皇より格別の思召をもって、御菓銘「手折桜」御下賜の光栄に浴する。同年4月20日御下賜御札のため管長現下・宗務総長・執事長・宗務参事との四名が皇居吹上御所西車寄せより参内「天皇陛下賜物御札簿」に記載し、深く感謝の念を表わす。同年9月19日より「天皇陛下玉体安穩」のご祈願を始め、21日には管長現下と前記宗務院役員3名が宮内庁坂下門より参内。吹上御所に於て待従を通じて「御宝牘」を奉納の上、「両陛下御機嫌伺簿」に記載する。昭和64年1月7日、昭和天皇崩御の悲報に接し、ただちに総本山本隆寺のご宝前にて、奉弔法要を修し奉る。

日本山妙法寺

昭和63年1月8日・9日両日熱海道場にて行勝院日達上人第4回忌厳修。2月25日は、行阿院日蘇大法尼第60回忌法要後身延山参詣。同日スリランカ仏足山仏舎利塔10周年法要。28日アン・パラ仏舎利塔落慶式。昨年12月12日印度多宝山を出発した行進団は1月11日ダージリン到着、日蓮宗青年僧御参加。2月10日百里原基地・焼津ビキニ行進出発。3月12日はフィンランドのワルシャワを出発した行進は東ドイツ西ドイツベルギーを経て5月28日ロンドン仏舎利塔到着。4月2日シカゴ発の行進は4月16日メイン州バンガーを出発の行進其他と合流国連本部に入場。4月18日、唐招提寺を出発した寺沢師一行は鑑真和上、日達上人招来の仏舎利を奉じて各宗本山を巡り世界13ヶ国を歴訪平和を訴え国連軍縮総会入場。4月27・28日清澄立宗会法要後、広島長崎向け平和行進出発、平和式典参列長崎へ出発

法華宗陣門流

2月3日総本山本成寺に於いて、「節分会鬼踊り追儺会」が貫首野口日騰現下の導師のもとに厳修された。例年通り約1万人の出入の中、雪国越後の行事として、鬼踊り奉賛会による鬼踊りは有名である。今年には鬼の面を新調し、節分会をさらに盛り上げた。3月3日遠州の名刺鷲津・別院本興寺ご山主第四十六世鈴木日舛上人の晋山式が厳修された。5月9日・10日平成元年度三宗統合協議会(顕本・真門流・陣門流)が顕本法華宗の当番宗のもと、北陸山代「山道家」を会場に開催され、協議事項は、1、統合学院学生講座に関する件、2、聖訓カレンダー発行に関する件、3、日蓮門下連合会に関する件、4、協議会の新しい共同活動について等である。(江坂隆俊)

列合掌。宗門の至情を代表し、御霊の永遠のご平安を祈り奉る。同年3月9日、午前10時、宗務総長・執事長・宗務参事の3名が、武蔵野御陵に参拝し、総長導師により読経唱題、昭和天皇御霊の追福を祈り奉る。今もなお昭和天皇のお人柄と御遺徳に宗門は限りない敬慕の念を捧げている。(吉田勝秀)

法華宗陣門流

2月3日総本山本成寺に於いて、「節分会鬼踊り追儺会」が貫首野口日騰現下の導師のもとに厳修された。例年通り約1万人の出入の中、雪国越後の行事として、鬼踊り奉賛会による鬼踊りは有名である。今年には鬼の面を新調し、節分会をさらに盛り上げた。3月3日遠州の名刺鷲津・別院本興寺ご山主第四十六世鈴木日舛上人の晋山式が厳修された。5月9日・10日平成元年度三宗統合協議会(顕本・真門流・陣門流)が顕本法華宗の当番宗のもと、北陸山代「山道家」を会場に開催され、協議事項は、1、統合学院学生講座に関する件、2、聖訓カレンダー発行に関する件、3、日蓮門下連合会に関する件、4、協議会の新しい共同活動について等である。(江坂隆俊)

日本山妙法寺

昭和63年1月8日・9日両日熱海道場にて行勝院日達上人第4回忌厳修。2月25日は、行阿院日蘇大法尼第60回忌法要後身延山参詣。同日スリランカ仏足山仏舎利塔10周年法要。28日アン・パラ仏舎利塔落慶式。昨年12月12日印度多宝山を出発した行進団は1月11日ダージリン到着、日蓮宗青年僧御参加。2月10日百里原基地・焼津ビキニ行進出発。3月12日はフィンランドのワルシャワを出発した行進は東ドイツ西ドイツベルギーを経て5月28日ロンドン仏舎利塔到着。4月2日シカゴ発の行進は4月16日メイン州バンガーを出発の行進其他と合流国連本部に入場。4月18日、唐招提寺を出発した寺沢師一行は鑑真和上、日達上人招来の仏舎利を奉じて各宗本山を巡り世界13ヶ国を歴訪平和を訴え国連軍縮総会入場。4月27・28日清澄立宗会法要後、広島長崎向け平和行進出発、平和式典参列長崎へ出発

法華宗陣門流

2月3日総本山本成寺に於いて、「節分会鬼踊り追儺会」が貫首野口日騰現下の導師のもとに厳修された。例年通り約1万人の出入の中、雪国越後の行事として、鬼踊り奉賛会による鬼踊りは有名である。今年には鬼の面を新調し、節分会をさらに盛り上げた。3月3日遠州の名刺鷲津・別院本興寺ご山主第四十六世鈴木日舛上人の晋山式が厳修された。5月9日・10日平成元年度三宗統合協議会(顕本・真門流・陣門流)が顕本法華宗の当番宗のもと、北陸山代「山道家」を会場に開催され、協議事項は、1、統合学院学生講座に関する件、2、聖訓カレンダー発行に関する件、3、日蓮門下連合会に関する件、4、協議会の新しい共同活動について等である。(江坂隆俊)

列合掌。宗門の至情を代表し、御霊の永遠のご平安を祈り奉る。同年3月9日、午前10時、宗務総長・執事長・宗務参事の3名が、武蔵野御陵に参拝し、総長導師により読経唱題、昭和天皇御霊の追福を祈り奉る。今もなお昭和天皇のお人柄と御遺徳に宗門は限りない敬慕の念を捧げている。(吉田勝秀)

本門佛立宗

京都本山有清寺に「弘安2年(石山善邦)釈尊成道法要各道場にて営む。7月17日、本山有清寺にて「開導百遠諱御正當二祥月法要」が、全国寺院住職・局長の参列で営まれることになっている。

国柱会本部編

昭和天皇の御製 歌会始…五十六首 国民…五十六首 国土…四十六首 文化・産業…三十三首 先祖・親族…六十一首 旅…四十六首 自然・動植物…四十五首 感懐…六十三首 (厚田中 香浦 あかき大塚 梅子)

若い世代にも理解できるように、語釈と解説を付した御製集。普及運動展開中(頒布価格●一部二五〇円) 【お申し込み先…国柱会本部へ。詳細は国柱会本部までお問い合わせ下さい】 発行●真世界運動本部 〒112 東京都江戸川区一之江六の十九の十八 電話(三三六)七二二〇 FAX(三三六)九八八